

# 日本生活体験学習学会

## 第21回研究大会 大会要項

日本生活体験学習学会第21回大会大分大会が、大分大学教育学部を会場として開催されます。今年は「平成」から「令和」へと新しい「時代」がスタートした年でもあります。このような記念すべき時に大分で大会を開催できますこと、大分大会関係者一同大変光栄に思います。また21回大会ということで、今まで20回にわたり開催されてきました大会の内容を礎として、本学会にとって新たな出発ができる大会であればと願っています。

皆様周知のように社会はめまぐるしく変化し、それに伴い私たちを取り巻く自然的・社会的環境は大きく変貌しました。多くの課題が生起している今日、とりわけニート、フリーター、失業など若者の社会的自立が問題になって久しいのですが、このような問題に対する効果的な解決策が見つかっていないというのが現状のように思われます。

また学校（子ども）に目を向ければ、今日問題解決能力や批判的思考力、コミュニケーション能力、市民性の育成等がかかげた教育改革が進められています。いうまでもなく、従来の学校教育における重点が知識の「習得」におかれていたのに対し、現在目ざされているのは、子どもが実際に生活したり活動したりする中で直面する問題を解決するために、知識を「活用」できる資質や能力の育成であるといえます。そのために授業の内容と方法の改善が求められているのですが、学校教育が内包する問題のみならず前述した諸問題を解決する一方策として、あらためて「体験(活動)」に注目する必要があるように思われます。言い換えますと、子どもや若者を取り巻く問題解決のベースとしての「体験(活動)」を考えることが重要であると考えられます。

大分大会では、会員の自由研究発表とともにシンポジウムも企画しています。シンポジウムは、学校教育における体験(活動)の可能性を主たる問題関心として、3年間にわたり取り組んできました内容のまとめをしたいと思えます。是非皆さんからの貴重なご意見等をいただければ、今後の学会の発展にもつながっていくと考えます。多くの皆さんのご参加を、大分大会関係者一同お待ちしております。

第21回大分大会実行委員長 山崎 清男

1. 期 日 2019年9月7日（土）

2. 会 場 <研究大会> 大分大学教育学部  
大分県大分市旦野原700 大分大学旦野原キャンパス  
<懇親会> 大分個室居酒屋 呑み処 蔵の間 大分駅前店  
大分県大分市末広町1丁目11-1 サンク BL2 5F

3. 日 程

9/6 (金)					■理事会 15:00~17:00	■懇親会 18:00~	
9/7 (土)	■受付 9:00~	■開会 行事 9:20~	■自由研究 発表 9:30~11:45	■昼食・休憩 11:45~12:45	■総会 12:45~ 13:45	■公開 シンポジウム 14:00~16:30	■閉会 16:30~

4. 参加費 <研究会> 会員：1,500円 非会員：500円  
<懇親会> 5,000円（要、事前申込）

◆大会当日の9月7日（土）は、大学生協の食堂は営業しておりません。昼食は、学内ならびに近隣のコンビニエンスストアをご利用いただくか、あらかじめご持参ください。

◆大会前日9月6日（金）18時から懇親会を開催します。参加費は5,000円です。

参加を希望される会員は申込用紙にて **2019年8月23日（金）までに、大分大会実行委員会**へFAXまたは電子メールにてご連絡ください。

※申込用紙は学会HPからもダウンロードできます

なお、懇親会への当日受付参加は、予約の都合上致しかねます。ご了承ください。

■ 9:00~ ■■ 受付

---

（教育学部 A 棟 2 階）

■ 9:20~9:30 ■■ 開会行事

---

（200号教室）

■ 9:30~11:45 ■■ 自由研究発表

---

（200号教室）

個人発表 25分（20分発表 5分質疑）／共同発表 30分（25分発表 5分質疑）

\*共同研究の発表者には○を付しています。

司会：牧野 治敏（大分大学高等教育開発センター）

9:30~9:55 親の「語り」を通じた子育てにおける「学び」に関する考察（2）

—懇談会での「語り」の変容に着目して—

永田 誠（大分大学）

9:55~10:20 小学校における生活体験学習としての飼育及び栽培活動の成果と課題

伊東 俊昭（佐伯市立明治小学校）

10:20~ 10:45 生活体験の自己評価から見た思春期ライフコースの危機管理

～認知・行動理論の教育・社会臨床を目指して～

山岸 治男（別府溝部学園短期大学）

10:45~11:45 総括討議

■ 12:45~13:45 ■■ 総会

---

（204号教室）

## 「社会に開かれた教育課程」と体験活動の関連と展望

「新しい時代の教育や地方創生の実現に向けた学校と地域の連携・協働の在り方と今後の推進方策について（平成27年12月21日中央教育審議会答申）」は、教育改革・地方創生にむけて、学校と地域の関係について次のようなビジョンを示した。第一に「地域とともにある学校への転換」（開かれた学校から一歩踏み出し、地域の人々と目標やビジョンを共有し、地域と一体となって子供たちを育む）、第二に「子どもも大人も学び合い育ち合う教育体制の構築」（地域の様々な機関や団体等がネットワーク化を図りながら、学校、家庭及び地域が相互に協力し、地域全体で学びを展開していく）、第三に「学校を核とした地域づくりの推進」（学校を核とした協働の取組を通じて、地域の将来を担う人材を育成し、自立した地域社会の基盤の構築を図る）である。これらの推進基盤として「コミュニティ・スクール」および「学校地域協働本部」が位置づけられている。従来の学校支援地域本部、放課後子供教室等の活動をベースに、「支援」から「連携・協働」、個別の活動から「総合化・ネットワーク化」を目指すという。

今日の教育政策が提唱するのは、不確実な時代を生き残るために必要な汎用性の高い能力（キー・コンピテンシー）である。それはグローバル社会が子どもに要請するものであり、子ども中心とは言えないものである。戦後に企図された、「子どもの生活経験」を中心とする生活・地域課題解決学習（地域創造）のカリキュラムの実現は、今日、どこまで可能なのだろうか。

また、ゆとり教育以後、学校と地域の関係については、学校は知識を学ぶ場で地域は体験の場という棲み分けと整備が行われてきた。だが、前述の答申では、連携や支援を超え、共に子どもの教育目標を共有し、協働するという一体化を提唱している。そこでは、地域の一員として子どもを育てる体験学習が企図されている。

だが、地域で行われてきた体験は、様々な教育効果が長い時間をかけて現れるような性質のものであり、地域の体験の内容や方法をそのまま学校の中に持ち込めないものもあろう。地域と学校で体験的な学習を作っていくに当たり、子どもに地域の魅力や地域の成員であることを感じさせられる本物の体験をさせることが、果たして地域と学校の協働で可能なのだろうか。

以上の問題意識の下に、今回のシンポジウムでは、社会に開かれた教育課程と体験活動の関連と展望、それを支える連携・協働の有り様について考えていきたい。

## 【報告者】

伊藤 安浩（大分大学）

「社会に開かれた教育課程と体験活動の可能性」

玉井 康之（北海道教育大学）

「家庭・学校・地域の連携による体験カリキュラム構築の現段階」

古賀 倫嗣（放送大学熊本学習センター／日本生活体験学習学会会長）

「連携を進めていく上での課題と解決に向けた方策」

## 【趣旨説明】

長尾 秀吉（別府大学）

## 【司会】

上野 景三（佐賀大学大学院／日本生活体験学習学会プロジェクト研究部会長）

## ■□■□■□■事務局からの連絡■□■□■□■

### ◆書籍販売◆

当日は、会場内で生活体験学習の関連書籍の販売を行います。販売したい書籍がある場合、必ず事前に学会事務局（info@seikatsu-t.org）までご連絡ください。

※個人での持込み販売は、ご遠慮ください。

### ◆会場案内◆

#### ■大分大学旦野原キャンパス

〒870-1192 大分市大字旦野原 700

<JR> 大分駅ーJR 豊肥本線（15分）

ー大分大学前駅

<バス> ○大分駅から

「大分駅前3・4のりば」

もしくは「トキハデパート前1のりば」

・「大南団地・高江ニュータウン」「大分大学」  
行きー（30分）ー「大分大学正門」もしく  
くは「大分大学（構内）」下車

・「戸次」「臼杵」「竹田」「佐伯」行きー  
（30分）ー「大分大学入口」下車

※詳細は大分大学HP「交通アクセス」をご覧ください

<https://www.oita-u.ac.jp/category/access.html>



日本生活体験学習学会 事務局

第21回研究大会 大分大会実行委員会

〒870-1192 大分市大字旦野原 700 大分大学教育学部 永田研究室内  
TEL/FAX : 097-554-7559 E-mail info@seikatsu-t.org